

様式第2号（第5条関係）

平成29年 10月 17日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

文成克司



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成28年10月10日 ～ 平成28年10月13日まで
- 2 旅行先 高知県馬路村・土佐市、徳島県上勝町
- 3 目的 「ゆず」による村おこし事業、土佐市子ども健康づくり
杉（いざり）事業、ごみ資源のせり、ウエイスト宣言
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成28年10月11日 9:00 ~ 12:00
視 察 先	高知県馬路村
調査事項	「ゆず」にする村のこし事業
対 応 者	馬路村農業協同組合職員
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	馬路村は高知県東部の山の中にある小さな村です。人口は、昭和23年には約3,600人でしたが、現在822人まで減少し、典型的な過疎の村である。 村の面積の96%が山林であり、以前、「馬路森林署」の貯木場でした。馬路村が天然木の魚梁瀬杉を搬出した時代です。天然杉の資源がなくなり、空地になっていたこの地に、山村に働く場をつくるため「ゆずの森構想」と計画し、いくつかの工場をつくりました。 馬路村の「ゆず」の歴史は古く、平家の落人によって伝えられたと言われている。加工の歴史は新しく、その成果は最近ようやく実りはじめたようです。馬路村農協の特徴は、昔からこの地で生産していた「ゆず」の実を搾った果汁の販売でしたが、徐々にゆず加工品の商品開発に取り組み、現在では50種類以上のゆず製品を製造販売している。また、最近では食べ物以外の分野性を見だし、化粧品の研究と製造も行っている。 販路については、行政と農協との協働で、高知県内さらに四国と販路を広げていった。地道な販売拡大は全国に進路していった。全国各地に約35万人の顧客を持ち、年商33億円になった。

※人口減少、高齢化社会という時代の中、6次産業化と地域ブランド化を実践し続けた、JA馬路村の組合長のリーダーシップは、現場重視の視点で、これまでの実践例から生産、加工、販売に至るプロセスチャートについてある。

日 時	平成28年10月11日 14:30 ~ 16:30
視 察 先	高知県土佐市
調査事項	土佐市子ども健康づくり、アクションプランについて
対 応 者	土佐市健康づくり課 課長 森本 悦郎 代 他2名
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	土佐市は、県都高知市から西へ約15km、高知県 91番中央に位置し、陽光豊かで、温暖な田園 都市である。 本市は、自主と共生を基本理念に、人が元気に来 来といく活力都市と将来都市像に掲げ、文化・ 産業が発展する元氣なまちとし、未来に夢と希 望をつなぐ活力あるまちづくりを目指している。 人口 27,924人 面積 91.49 km² <どうして健診ってとくな健診？> どうして健診は、子ども(小学5年生及び中学2年生) と対象とした小児生活習慣病予防健診です！ 6歳から14歳までの年齢を見ても、土佐市は肥 満傾向の子どもが多い。 ○どうして健診の目的は？ ・生活習慣病とは、長年の生活習慣が原因で、脳 血管疾患や心疾患、糖尿病などの病気が起っ てくるといふ病気？しかし…… ・大人になってから、長年の生活習慣を改善するのは 容易ではない！ <子どもの頃から健康に関心を持ち、望ましい生 活習慣を身につけることが大切！> ~> 大人の 特定健診項目と同じ> 検査を実施している。

<健診の内容>

①健診日程：年に4回（8月・12月）

②受診の同伴・対象者のうち、希望者・健診当日らび健診結果説明会に保護者の同伴が可能

<健診を通じて、親子で生活習慣を振り返り、きっかけにしている>

受診率は、まだまだ低い現状であるが、学校、PTA、地域を通じて、受診率向上にむけて、プログラムを作成した。

子ども達の感想も、自分のからだは自分で管理するということを学び、健康が第一ということを学んできた。理解できた。

<土佐市子どもの健康づくり、アクションプランについて>

《趣旨》市民が健康で、安全・安心に暮らせる健康づくりの実現に向け生活習慣が確立されている子どもをターゲットとして、子どもの健康問題を総合的に検証すると共に「身体」と「こころ」の健康づくり、個性と豊かな人間性の成長を支援し、生活習慣病をはじめとする疾病予防の推進を図る。

○今後のアクションプラン策定に向けて

乳幼児期から学童・思春期末までつながりのある取り組みを推進。

とさ子健診等の結果をもとに子どもたちの健康をとらえながら、目標設定をし、取り組みをすすめていく。

<どこの市町村にも、参考になる事例である。>

日 時	平成28年10月12日 14:00 ~ 16:30
視 察 先	徳島県 上勝町
調査事項	彩(いろどり)事業。ごみも資源に効・ウェスト宣言
対 応 者	上勝町副町長 森 周一様 (株)いろどり 栗坂 啓吾氏
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	上勝町は、徳島市内から約40km、四国山脈の南東山地に位置し山間の町である。大部分が山林をふくむ大小の集落が点在している。徳島県で最も高齢化率が高い町である。 <彩(いろどり)事業> 「彩」とは、料理のつま物として商品化したものである。女性や高齢者でも負担なく取り扱うことができる素材となっている。昭和61年に4軒の生産者でスタートした。現在販売額 2億6000万円となっている。 ・業のばビジネスのポイント上勝情報ネットワークが鍵。生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市況、情報と迅速に共有する。 ・平成24年7月より、「タブレット」使用導入おこなわれ高齢者の方でも、使いやすい工夫がされている。 ・年収1000万円以内の高齢者もいて、次の世代の人達も、サイドビジネスとして収入源になっている。 <過疎の町、山間の町に、活きいきとした高齢者が元気に働く、光景は、おどろきと感心する> <ピンチとチャンスに高齢者の雇用の場作りに、当町にも大きな参考になる事業でした。>

<ごみを資源に(ゼロ・ウェイスト宣言)>

「ゼロ・ウェイスト」では、無駄、浪費、ごみをなくすという意見。リサイクル、リユースを進め、生産段階から処理に困らない製品をつくることで、焼却、埋め立て処理される有害なごみをなくしてという理念である。

子どもたちに、きれいな空気や、おいしい水を豊富に大地を継承するため、2020年までに、上勝町のごみをゼロにすることを決意し、上勝町にごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)を宣言します。平成31年9月に議会でご決まり、積極的に取り組んでいます。

○市民自ら家庭から出たごみをステーションに持ち込み、4種類に分別している。

○「くるくるショップ」「くるくる工房」事業を通じて、無料のリサイクル・リメイクして、協力ごみを減らさない。
ごみの減量促進や普及啓発に尽力している
く上勝町の「ゼロウェイスト」は、全国の市各自治体でも参考なる事業であると強く認識した。>